

平成29年度 GISA人材育成技術研修一覧

一般社団法人 群馬県情報サービス産業協会

◇会場 群馬県勤労福祉センター 第3会議室 ◇研修時間 全講座 ①1日目 午前 9時30分～午後 5時00分 ②2日目 午前9時30分～午後4時30分
 ◇受講料 全講座 会員 10,000円 非会員 16,000円 ◇講師 ㈱アイティアシスト

平成29年度版

講座名《参加人数》	実施期日	対象者	目的	受講者評価(アンケートから)
第6講座 《25名》 ソフトウェア・エンジニアリング (レビュー技術)	平成29年 10月 19日(木) 20日(金)	新入社員の基礎教育が完了している若手システム開発者システム開発の初級リーダー・サブリーダー	ソフトウェア・エンジニアリング知識の重要性を理解し、自立した技術者になるために、レビュー技法を身につける。品質工学を学習し、レビューの心得や実施方法を、実習を通じて習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 初めてレビューをしてみたが、自分でも気づけることがあるのかと自信になった。また、他社の方の意見は自分で気付けないことが発見でき楽しかった。 早期欠陥除去を行っておかないと、開発全体としてより多くのコストが発生してしまうから、レビューの重要性を再認識できた。 普段レビューを受ける側なので、レビューをする側がどういう考えで、どのような箇所に注目しているのかを知ることができた。 自己レビューを通して、言葉や仕様の整合性がとれているかをチェックすることの大切さを学んだ。 指摘事項を挙げるだけでなく、その後の業務向上につながるようにアドバイスをするといった部分も学べました。実戦で活かして上司を驚かせます。
第7講座 《25名》 ソフトウェア・エンジニアリング (テスト設計)	平成29年 11月 28日(火) 29日(水)	新入社員の基礎教育が完了している若手システム開発者システム開発の初級リーダー・サブリーダー	ソフトウェア・エンジニアリング知識の重要性を理解し、自立した技術者になるために、レビュー技法を身につける。欠陥除去活動であるテスト設計の視点を養い、開発現場へ適用できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> レビュー技法での演習に比べて、グループワークは、難しく感じました。今回のグループワークで挙げられたテストケースを実際の業務でもチェックリストとして活用したい。 知識不足のため、初めて聞く言葉も多く、少し大変でしたが、テスト項目の考え方を学べたこと、そしてデモンストラーションテーブルは、とてもわかりやすく、便利だなあと感じたので、業務で活かしたい。 技術職の基礎としてテスト設計の手法を学習することができた。社内でもテストは行っていたが、ホワイトボックステスト・ブラックボックステストといった手法の違いがあることを知った。営業職ではあるが、技術者の目線になって理解できた。 テスト工程として、単体テストから始まり、段階を踏んでテストを進めていくことを学び、テスト項目を考える際には、何に気をつければよいかを学べたので、仕様書を作成する際に活かしていきたい。
第8講座 《25名》 プロジェクト管理技法修得(基礎)	平成29年 9月 21日(木) 22日(金)	開発の初級サーダ・サブリーダー・近々にリーダー職に付く開発担当者・経験は豊富だが基礎理論の補強を希望するリーダー	プロジェクトマネージャとして必要なプロジェクトに対する基本的な概念の把握、プロジェクト計画・運営・完了評価での留意ポイント・必要技法の紹介を行う。また、グループ演習により理論と経験の結び付けを行う。 本年度のポイント: 基本的な理解度を深めるために、アーンドバリューグラフからの状況把握演習を追加した。また、開発方法論の概要理解に XP 開発についても簡単に触れ、新しい方法論に対する認識の向上をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> プロセスの成熟度を学び、自分が現在行っていることが、レベル1ということが分かりました。レベルを上げていくことを心がけていきます。 成熟度レベル1の状態、レベル3のことは行おうとしてもできないというお話が参考になりました。 具体的にどう動けばよいかとの話もあり参考になりました。 定められたスケジュールに対して、納期、機能、予算についての調整は最終手段という意識がなく、このあたりのスキルが求められている勘違いもあったため、基本から丁寧に聴けてよかったです。 スケジューリングについての考え方は、どのタイミングに、ここは詳細に、ここはざっくりと、の判断をする視点に気づけたのが、一番大きな収穫でした。 ユーザに対して、開発方法を説明する際には、どのような前提、目的、思想、があるのかを明確にしておく必要があることを学んだ。また、その理論があれば、周りを納得させるのに十分であると感じた。
第9講座 《25名》 プロジェクト管理技法修得(実践)	平成29年 10月 26日(木) 27日(金)	開発あるいはプロジェクトのサブリーダー、リーダー	プロジェクトマネージャとして必要な問題解決に対する概念の把握、モチベーション理論を意識した運営時での留意ポイントの紹介を行う。また、統一ケースのグループ演習により計画から完了評価までを通して理論と経験の結び付けを行い実践で生かせるスキルの習得を図る。また、FP の算出演習を組み込み理解度の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 今現在PMとしての作業は行っておりませんが、人への対応方法に関しては、明日から使える知識だったので、即実践してみようとおもいました。 改修規模の見積もりを行う機会があるので、ファンクションポイントの算出方法は、活用してみたい。 何となく経験でこなしていた部分を、今回の研修で、根拠となる「数字」を算出してマネジメントの材料として使うことが大事だと思った。 他社の方とのグループワークでは、自分では考えつかない意見が出て、勉強になることばかりで、同じ立場の他社との交流は、これからの仕事に大きなプラスになると思います。 実例を挙げての説明と演習問題が多く、実際の現場に近い形での研修のため、自分の経験とその時のプロジェクトを思い、考察できた。 日頃、上司やユーザに言われることの根拠がわかった。何より、モチベーションが上がった。